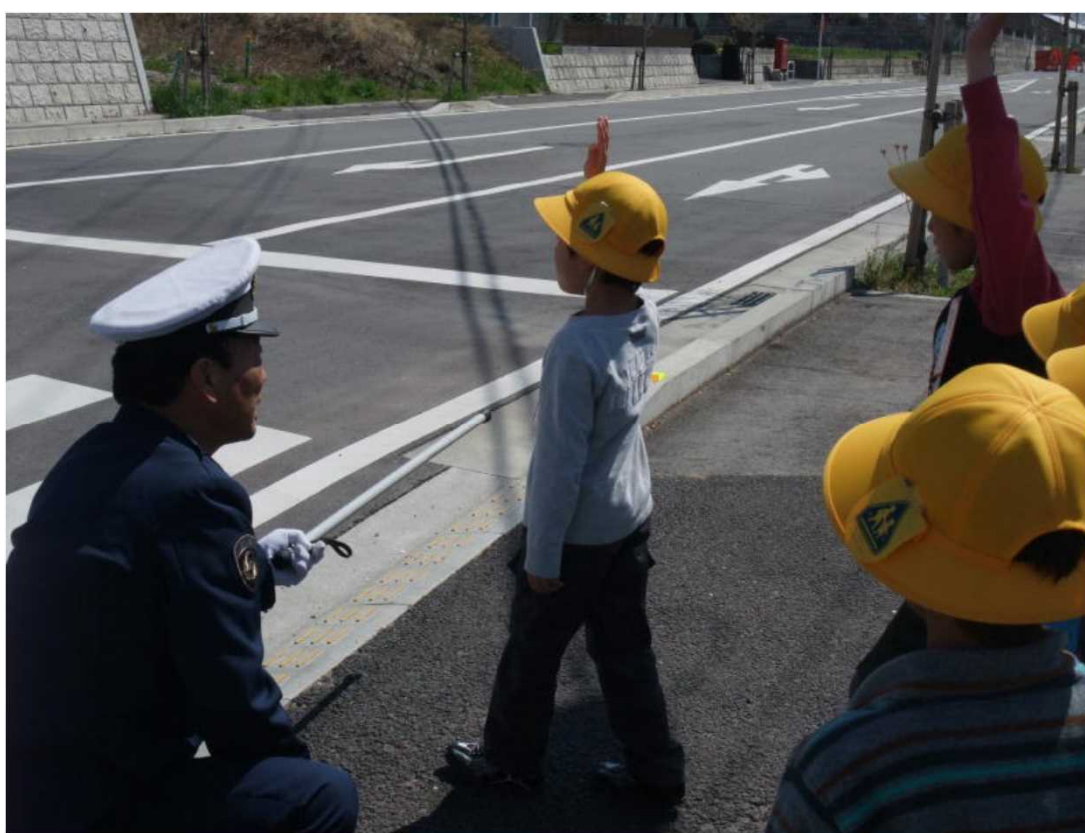


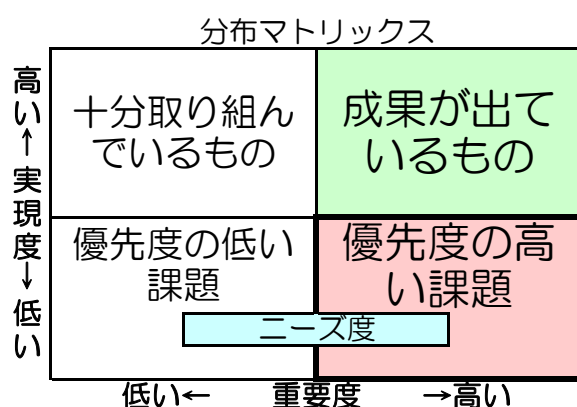
# 平成25年度 学校評価自己評価書



平成25年7月実施  
前橋市立時沢小学校

# 学校評価「ニーズ度方式」 の見方について

- 評価方法は、前橋市標準の「ニーズ度方式」でおこないます。このアンケートの項目は、「実現度」と「重要度」の2観点評価になっており、学校課題の優先順位を明らかにすることができます。
- \* 「重要度」は、時沢小学校にとって「大変重要である」7点、「やや重要である」5点、「あまり重要でない」3点、「重要でない」1点の4段階で評価し、数値化します。
- \* 「実現度」は、時沢小学校の現状では、「よくできている」7点、「大体よくできている」5点、「あまりできていない」3点、「できていない」1点、「わからない」0点の5段階で評価し、数値化します。
- \* 「重要度」が平均より高く、「実現度」が平均より低い区分の項目を「優先の高い課題」と定義し、時沢小学校にとっての重要課題であり、最優先で取り組む必要があるものととらえています。（下図参照）
- \* 「ニーズ度」は、「ニーズ度=重要度×(8-実現度) > 25」と定義し、重要度と[8-実現度]の5点の積である25より大きい値としました。（重要度と実現度の差が大きい項目がこれに当てはまります）



NH11 調査結果集計表1【ニーズ度形式 小学校】[H25前]

連番	グループ	番号	設問	保護者				教職員				児童	
				重要度	実現度	ニーズ度	わからない%	重要度	実現度	ニーズ度	わからない%	実現度	わからない%
1	学校経営の充実に向けた学校評価の活用	1	学校評価結果を基に、学校課題を明確にして、その解決に組織として取り組むこと	6.3	5.2	17.6	11.7%	6.0	4.9	18.6	4.2%		
2		2	特色ある学校づくりが充実するよう、学校独自の評価項目を設定して、評価結果を学校経営に生かすこと					5.5	4.8	17.6	0.0%		
3	教職員の資質・能力の向上	1	実践的な授業力や経営力を高めるために市や県主催の研修会に参加すること					5.7	4.8	18.2	0.0%		
4		2	教師としての資質向上や授業の改善を目指す校内研修を計画的・継続的に推進すること					6.2	5.8	13.6	0.0%		
5	生徒指導体制の充実	1	不登校の解消やいじめの根絶を目指して組織的な対応に取り組むこと	6.9	5.1	20.0	16.8%	6.9	5.6	16.6	0.0%	6.5	6.3%
6		2	家庭や地域、関係諸機関と密に連携しながら生徒指導の充実に取り組むこと	6.5	5.2	18.2	7.7%	6.5	5.4	16.9	0.0%	5.8	1.6%
7	安全管理・指導の徹底	1	交通安全教室や避難訓練などを通して、安全教育の充実を図ること	6.7	5.4	17.4	4.0%	6.2	5.4	16.1	0.0%	6.5	1.1%
8		2	施設・通学路の安全点検や校区のパトロールなど、安全管理の徹底に取り組むこと	6.5	5.1	18.9	8.2%	6.2	5.0	18.6	0.0%		
9	特別支援教育の推進	1	特別支援教育コーディネーターを中心に校内の特別支援教育体制を充実させること					6.2	5.5	15.5	0.0%		
10		2	特別支援教育が充実するよう、関係諸機関との連携を深めること					6.2	5.3	16.7	0.0%		
11	基礎・基本の確実な定着	1	ねらいを明確にするとともに、児童生徒が主体的に学習に取り組むよう、問題解決的な学習を計画	6.7	5.2	18.8	4.2%	6.5	5.1	18.9	0.0%	5.9	2.0%
12		2	基礎的・基本的な知識・技能を習得する学習とそれらを活用する学習とをバランスよく行うこと	6.8	4.8	21.8	1.9%	6.8	5.4	17.7	0.0%	6.0	0.9%
13		3	各教科等の特性に応じた言語活動を工夫し、言語活動が充実するよう指導すること	6.7	4.1	26.1	4.9%	6.3	5.1	18.3	0.0%	5.3	2.0%
14		4	学校での朝読書や家庭での読書など、児童生徒が読書活動に取り組むこと	6.3	4.3	23.3	0.8%	6.3	5.2	17.6	4.2%	5.8	1.1%
15		5	家庭学習の習慣化など、学習習慣が身に付くように指導すること	6.6	4.7	21.8	0.6%	6.4	5.1	18.6	4.2%	5.8	0.7%
16	豊かな人間性の育成	1	全体計画や年間指導計画等に基づき、道徳教育や人権教育を計画的に推進すること	6.7	5.0	20.1	8.7%	6.0	4.8	19.2	0.0%	6.1	1.6%
17		2	教師と児童生徒、児童生徒相互の豊かな人間関係づくりに取り組むこと	6.8	5.6	16.3	2.5%	6.8	5.5	17.0	0.0%	6.4	1.8%
18		3	児童生徒の発達段階や興味・関心に応じた豊かな心を育む体験活動を推進すること	6.4	5.0	19.2	5.9%	6.3	5.1	18.3	0.0%	5.8	5.7%
19	健康保持・体力の向上	1	児童生徒の体力が向上するよう、運動に取り組みやすい環境づくりや指導方法を工夫すること	6.3	5.1	18.3	7.0%	6.5	5.2	18.2	0.0%	5.9	2.0%
20		2	家庭と連携しながら児童生徒に基本的な生活習慣が身に付くように指導すること	6.7	5.2	18.8	0.2%	6.3	5.0	18.9	0.0%	5.7	0.9%
21		3	健康診断結果に基づく疾病の早期治療の啓発や疾病予防に関する指導を行うこと	6.2	5.4	16.1	4.7%	6.2	5.3	16.7	0.0%	6.2	1.8%
22		4	望ましい食習慣の形成を目指し、食に関する指導を系統的に行うこと	6.4	4.9	19.8	2.5%	6.0	5.2	16.8	0.0%	5.4	1.1%
23	現代の教育ニーズに応じた多様な教育の推進	1	省エネ活動やリサイクル活動など、環境教育を推進すること	5.9	5.0	17.7	13.4%	5.9	5.0	17.7	0.0%	5.8	3.1%
24		2	望ましい職業観・勤労観や自分の生き方について考えさせるなど、キャリア教育を推進すること	6.1	4.7	20.1	18.8%	5.8	4.0	23.2	4.3%	6.2	2.0%
25		3	自国や他国の文化への関心やコミュニケーションの力を段階的に高めるよう、外国語活動を系統的に行うこと	6.0	4.6	20.4	17.0%	5.7	4.9	17.7	0.0%	5.4	4.9%
26		4	ICT機器を活用した授業実践や情報モラルを計画的に指導すること	5.8	4.7	19.1	20.0%	5.7	4.9	17.7	0.0%	6.5	12.7%
27	学校評議員制度の活用	1	学校評議員会を充実させ、評議員の意見を学校経営や学校改善に生かすこと					5.5	5.3	14.9	17.4%		
28	地域の人材や学校支援センター等の活用	1	地域人材を有効に活用するために、学校支援センター機能を充実させること	5.8	5.0	17.4	17.0%	5.6	4.2	21.3	18.2%		
29	地域の文化や自然を生かした教育活動の推進	1	地域の文化や自然などの教育的価値を見出し、教育活動に生かすこと	5.8	5.0	17.4	13.8%	5.8	4.7	19.1	0.0%		
30	教育活動の積極的な公開	1	日々の教育活動を理解してもらえるよう、学校の様子を保護者や地域に積極的に伝えること	6.2	5.1	18.0	5.3%	6.3	5.3	17.0	0.0%		
全項目平均				6.4	5.0	19.3	8.2%	6.1	5.1	17.8	1.8%	5.9	2.8%

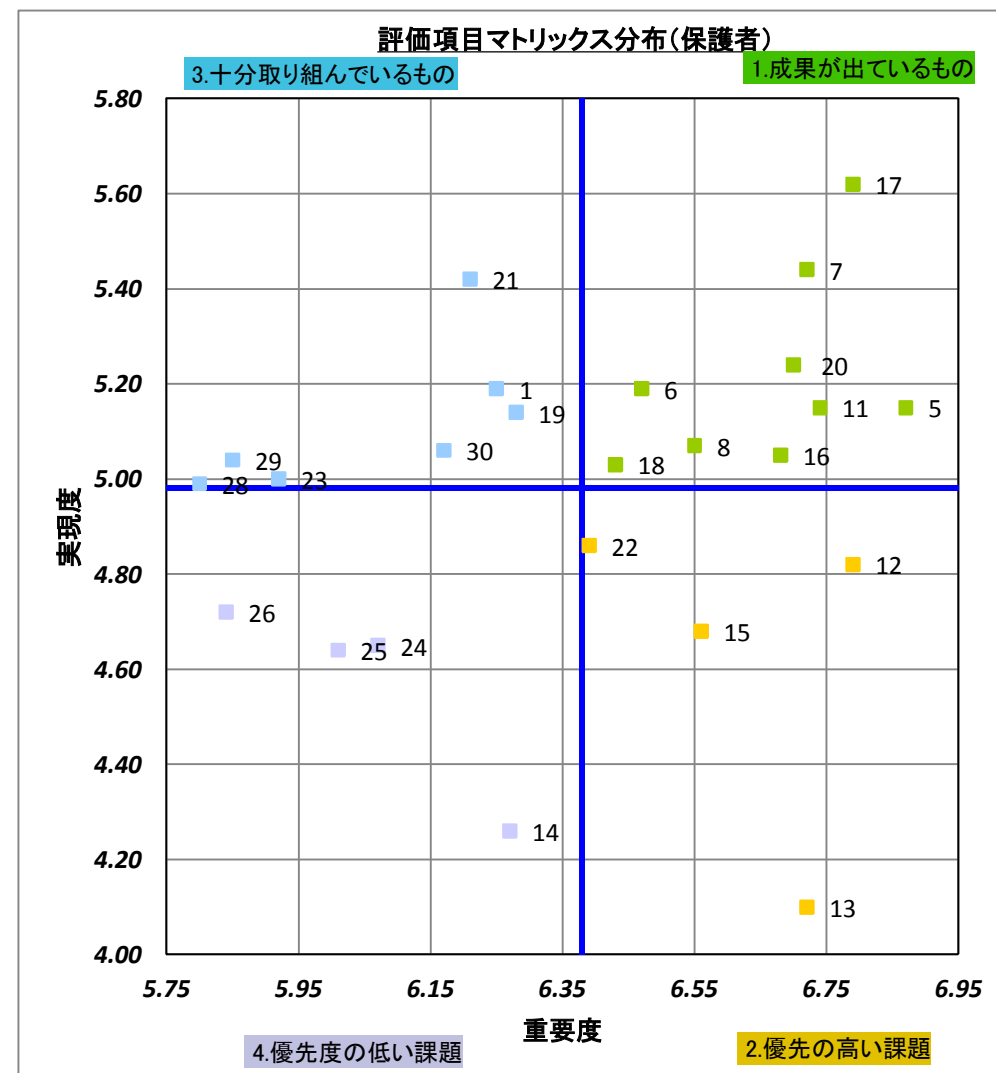
NH31 実現度集計表【ニーズ度形式 小学校】【H25前】

連番	グループ	番号	設問	実現度平均値			実現度回答率%		
				保護者	教職員	児童	保護者	教職員	児童
1	学校経営の充実に向けた学校評価の活用	1	学校評価結果を基に、学校課題を明確にして、その解決に組織として取り組むこと	5.2	4.9		88.3%	95.7%	
2		2	特色ある学校づくりが充実するよう、学校独自の評価項目を設定して、評価結果を学校経営に生かすこと		4.8			87.5%	
3	教職員の資質・能力の向上	1	実践的な授業力や経営力を高めるために市や県主催の研修会に参加すること		4.8			83.3%	
4		2	教師としての資質向上や授業の改善を目指す校内研修を計画的・継続的に推進すること		5.8			100.0%	
5	生徒指導体制の充実	1	不登校の解消やいじめの根絶を目指して組織的な対応に取り組むこと	5.1	5.6	6.5	88.1%	95.8%	97.7%
6		2	家庭や地域、関係諸機関と密に連携しながら生徒指導の充実に取り組むこと	5.2	5.4	5.8	91.4%	95.8%	94.4%
7	安全管理・指導の徹底	1	交通安全教室や避難訓練などを通して、安全教育の充実を図ること	5.4	5.4	6.5	92.4%	100.0%	98.0%
8		2	施設・通学路の安全点検や校区のパトロールなど、安全管理の徹底に取り組むこと	5.1	5.0		82.1%	87.5%	
9	特別支援教育の推進	1	特別支援教育コーディネーターを中心に校内の特別支援教育体制を充実させること		5.5			95.8%	
10		2	特別支援教育が充実するよう、関係諸機関との連携を深めること		5.3			95.8%	
11	基礎・基本の確実な定着	1	ねらいを明確にするとともに、児童生徒が主体的に学習に取り組むよう、問題解決的な学習を計画的に取り入	5.2	5.1	5.9	88.7%	95.8%	91.9%
12		2	基礎的・基本的な知識・技能を習得する学習とそれらを活用する学習とをバランスよく行うこと	4.8	5.4	6.0	81.4%	95.8%	92.4%
13		3	各教科等の特性に応じた言語活動を工夫し、言語活動が充実するよう指導すること	4.1	5.1	5.3	55.6%	83.3%	79.1%
14		4	学校での朝読書や家庭での読書など、児童生徒が読書活動に取り組むこと	4.3	5.2	5.8	55.9%	87.0%	84.8%
15		5	家庭学習の習慣化など、学習習慣が身に付くように指導すること	4.7	5.1	5.8	72.2%	91.3%	87.1%
16	豊かな人間性の育成	1	全体計画や年間指導計画等に基づき、道徳教育や人権教育を計画的に推進すること	5.0	4.8	6.1	89.3%	87.5%	94.8%
17		2	教師と児童生徒、児童生徒相互の豊かな人間関係づくりに取り組むこと	5.6	5.5	6.4	95.2%	100.0%	95.7%
18		3	児童生徒の発達段階や興味・関心に応じた豊かな心を育む体験活動を推進すること	5.0	5.1	5.8	82.6%	91.7%	89.7%
19	健康保持・体力の向上	1	児童生徒の体力が向上するよう、運動に取り組みやすい環境づくりや指導方法を工夫すること	5.1	5.2	5.9	88.1%	95.8%	88.1%
20		2	家庭と連携しながら児童生徒に基本的な生活習慣が身に付くように指導すること	5.2	5.0	5.6	83.5%	95.8%	85.3%
21		3	健康診断結果に基づく疾病の早期治療の啓発や疾病予防に関する指導を行うこと	5.4	5.3	6.2	94.5%	95.8%	94.3%
22		4	望ましい食習慣の形成を目指し、食に関する指導を系統的に行うこと	4.9	5.2	5.4	75.4%	95.7%	80.3%
23	現代の教育ニーズに応じた多様な教育の推進	1	省エネ活動やリサイクル活動など、環境教育を推進すること	5.0	5.0	5.8	86.5%	91.7%	88.6%
24		2	望ましい職業観・勤労観や自分の生き方について考えさせるなど、キャリア教育を推進すること	4.7	4.0	6.2	72.0%	50.0%	91.6%
25		3	自国や他国の文化への関心やコミュニケーションの力を段階的に高めるよう、外国語活動を系統的に行うこと	4.6	4.9	5.4	73.1%	87.5%	78.0%
26		4	ICT機器を活用した授業実践や情報モラルを計画的に指導すること	4.7	4.9	6.5	77.5%	83.3%	95.8%
27	学校評議員制度の活用	1	学校評議員会を充実させ、評議員の意見を学校経営や学校改善に生かすこと		5.3			100.0%	
28	地域の人材や学校支援センター等の活用	1	地域人材を有効に活用するために、学校支援センター機能を充実させること	5.0	4.2		84.7%	72.2%	
29	地域の文化や自然を生かした教育活動の推進	1	地域の文化や自然などの教育的価値を見出し、教育活動に生かすこと	5.0	4.7		85.5%	78.3%	
30	教育活動の積極的な公開	1	日々の教育活動を理解してもらえるよう、学校の様子を保護者や地域に積極的に伝えること	5.1	5.3		84.4%	100.0%	
全項目平均				5.0	5.1	5.9	82.0%	90.5%	89.9%

※ 実現度回答率は、回答の「よく出来ている」と「大体出来ている」を合わせた有効回答数に対する回答比率

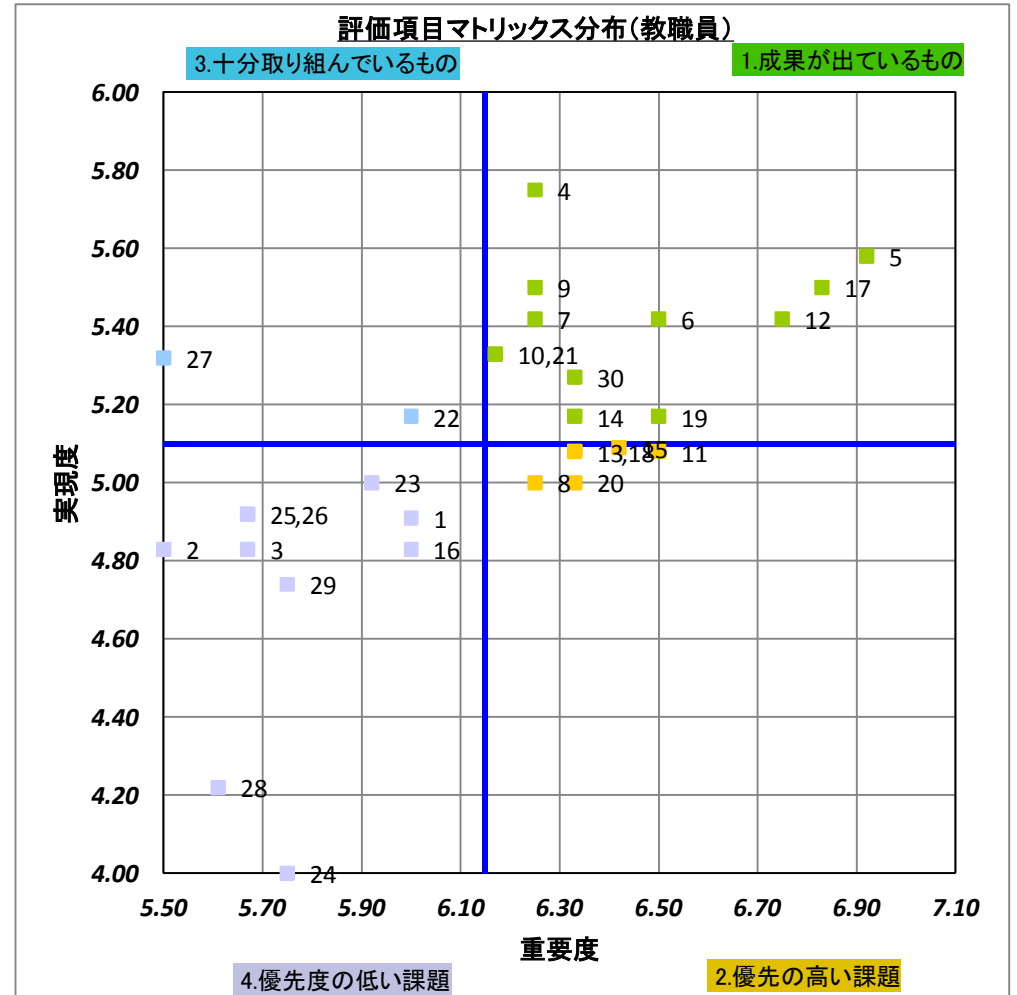
NG21 評価項目マトリックス分布(保護者)【ニーズ度形式 小学校】【H25前】

区分	設問	番号	重要度	実現度
1	お子さんが、友だちと仲良く過ごすこと	17	6.79	5.62
	学校が、交通安全教室や火災・地震・不審者対応の避難訓練などを通して、安全教育を行うこと	7	6.72	5.44
	お子さんが、「早寝・早起き・朝ごはん」など、規則正しい生活習慣を身に付けること	20	6.7	5.24
	学校が、家庭や地域と連携し、学校や社会の決まりを守らせること	6	6.47	5.19
	学校が、不登校やいじめがないように取り組むこと	5	6.87	5.15
	お子さんが、進んで授業に取り組むこと	11	6.74	5.15
	学校が、施設の安全を保ち、通学路の点検・パトロールや交通安全指導に家庭や地域と連携して取り組むこと	8	6.55	5.07
	学校が、児童生徒に相手を思いやる心を育てるなど、道徳や人権に関わる教育を充実させること	16	6.68	5.05
	お子さんが、自然体験などの様々な体験活動を通して、協調する心や感動する心をはぐくむこと	18	6.43	5.03
	2	お子さんが、好き嫌いなくバランスよく食べるなど、望ましい食習慣を身につけること	22	6.39
お子さんが、授業の内容を理解し、身に付けること		12	6.79	4.82
お子さんが、毎日、家庭で学習するなど、学習習慣を身に付けること		15	6.56	4.68
お子さんが、自分の考えをまとめ、考えたことを説明する力を身に付けること		13	6.72	4.1
3	学校が、病気の早期治療の啓発や病気の予防に関する指導を行うこと	21	6.21	5.42
	学校が、学校評価により明らかになった課題を家庭等に知らせ、その改善に取り組むこと	1	6.25	5.19
	学校が、児童生徒の体力向上を目指して、運動に親しめる工夫や環境づくりを行うこと	19	6.28	5.14
	学校が、児童・生徒の授業や行事の様子が分かるように、保護者や地域に積極的に情報を伝えること	30	6.17	5.06
	学校が、地域の文化や自然などを授業や行事に有効に生かすこと	29	5.85	5.04
	学校が、省エネ活動やリサイクル活動など環境教育の充実に取り組むこと	23	5.92	5
4	学校が、授業や行事などの充実のために、地域の人材を有効に生かすこと	28	5.8	4.99
	学校が、情報モラルを含め、パソコン等の通信機器を適切に使えるよう指導すること	26	5.84	4.72
	学校が、児童生徒に将来の夢や希望について考えさせること	24	6.07	4.65
	学校が、児童に外国の文化等を体験させたり、英語に親しませたりすること	25	6.01	4.64
	お子さんが、読書に親しむこと	14	6.27	4.26
	平均値		6.38	4.98



NG22 評価項目マトリックス分布(教職員)【ニーズ度形式 小学校】【H25前】

区分	設問	番号	重要度	実現度
1	教師としての資質向上や授業の改善を目指す校内研修を計画的・継続的に推進すること	4	6.25	5.75
	不登校の解消やいじめの根絶を目指して組織的な対応に取り組むこと	5	6.92	5.58
	特別支援教育コーディネーターを中心に校内の特別支援教育体制を充実させること	9	6.25	5.5
	教師と児童生徒、児童生徒相互の豊かな人間関係づくりに取り組むこと	17	6.83	5.5
	家庭や地域、関係諸機関と密に連携しながら生徒指導の充実に取り組むこと	6	6.5	5.42
	交通安全教室や避難訓練などを通して、安全教育の充実を図ること	7	6.25	5.42
	基礎的・基本的な知識・技能を習得する学習とそれらを活用する学習とをバランスよく行うこと	12	6.75	5.42
	特別支援教育が充実するよう、関係諸機関との連携を深めること	10	6.17	5.33
	健康診断結果に基づく疾病の早期治療の啓発や疾病予防に関する指導を行うこと	21	6.17	5.33
	日々の教育活動を理解してもらえるよう、学校の様子を保護者や地域に積極的に伝えること	30	6.33	5.27
	学校での朝読書や家庭での読書など、児童生徒が読書活動に取り組むこと	14	6.33	5.17
	児童生徒の体力が向上するよう、運動に取り組みやすい環境づくりや指導方法を工夫すること	19	6.5	5.17
	2	家庭学習の習慣化など、学習習慣が身に付くように指導すること	15	6.42
ねらいを明確にするとともに、児童生徒が主体的に学習に取り組むよう、問題解決的な学習を計画的に取り入れること		11	6.5	5.08
各教科等の特性に応じた言語活動を工夫し、言語活動が充実するよう指導すること		13	6.33	5.08
児童生徒の発達段階や興味・関心に心した豊かな心を育む体験活動を推進すること		18	6.33	5.08
施設・通学路の安全点検や校区のパトロールなど、安全管理の徹底に取り組むこと		8	6.25	5
3	家庭と連携しながら児童生徒に基本的な生活習慣が身に付くように指導すること	20	6.33	5
	学校評議員会を充実させ、評議員の意見を学校経営や学校改善に生かすこと	27	5.5	5.32
4	望ましい食習慣の形成を目指し、食に関する指導を系統的に行うこと	22	6	5.17
	省エネ活動やリサイクル活動など、環境教育を推進すること	23	5.92	5
	自国や他国の文化への関心やコミュニケーションの力を段階的に高めるよう、外国語活動を系統的に行うこと	25	5.67	4.92
	ICT機器を活用した授業実践や情報モラルを計画的に指導すること	26	5.67	4.92
	学校評価結果を基に、学校課題を明確にして、その解決に組織として取り組むこと	1	6	4.91
5	特色ある学校づくりが充実するよう、学校独自の評価項目を設定して、評価結果を学校経営に生かすこと	2	5.5	4.83
	実践的な授業力や経営力を高めるために市や県主催の研修会に参加すること	3	5.67	4.83
	全体計画や年間指導計画等に基づき、道徳教育や人権教育を計画的に推進すること	16	6	4.83
	地域の文化や自然などの教育的価値を見出し、教育活動に生かすこと	29	5.75	4.74
	地域人材を有効に活用するために、学校支援センター機能を充実させること	28	5.61	4.22
	望ましい職業観・勤労観や自分の生き方について考えさせるなど、キャリア教育を推進すること	24	5.75	4
	平均値		6.15	5.1



## 学校評価アンケートの分析と考察

連番	グループ	項目	設問	分析・考察
1	学校経営の充実に向けた学校評価の活用	1	学校評価結果を基に、学校課題を明確にして、その解決に組織として取り組むこと	・教職員の評価は2項目ともに「優先度の低い課題」であったが、保護者の評価は「十分取り組んでいるもの」であった。これは教職員にとっては他に優先課題があることと、保護者にとっては学校だよりやWebサイトで学校評価の結果を公開していることや自由筆記項目に対して学校長が丁寧に回答していること等の結果と思われる。
2		2	特色ある学校づくりが充実するよう、学校独自の評価項目を設定して、評価結果を学校経営に生かすこと	
3	教職員の資質・能力の向上	1	実践的な授業力や経営力を高めるために市や県主催の研修会に参加すること	・項目1については「優先度の低い課題」となったが、項目2については「成果が出ているもの」となった。教職員は一学期から「一人一授業」として校内研修に取り組んでいることや他クラスへの参観授業を進んで行うなどの実践が反映されているものと思われる。
4		2	教師としての資質向上や授業の改善を目指す校内研修を計画的・継続的に推進すること	
5	生徒指導体制の充実	1	不登校の解消やいじめの根絶を目指して組織的な対応に取り組むこと	・保護者、教職員ともに「成果が出ているもの」となった。これは教職員が日頃より児童の言動に注意を払い、また問題が発生したときには、関連機関との連携を図りながら、早期に対応し早期解決を目指して、迅速に且つ組織的に取り組んでいることが、保護者にも理解されているものと思われる。また児童の実現度回答率も97.7%、94.4%と高く、児童との信頼関係も築かれていることがうかがえる。
6		2	家庭や地域、関係諸機関と密に連携しながら生徒指導の充実に取り組むこと	
7	安全管理・指導の徹底	1	交通安全教室や避難訓練などを通して、安全教育の充実を図ること	・項目1については、保護者、教職員ともに「成果が出ているもの」となった。交通安全教室や避難訓練を計画的に実施し、日ごろの安全対策に具体的且つ組織的に取り組んでいる結果と思われる。項目2については、保護者は「成果がでているもの」となっている。集団下校やいろいろな機会を通して児童に交通指導や登校指導をしていることや、保護者とともに通学路点検や保護者の相談にも迅速に対応していることの反映と思われる。
8		2	施設・通学路の安全点検や校区のパトロールなど、安全管理の徹底に取り組むこと	
9	特別支援教育の推進	1	特別支援教育コーディネーターを中心に校内の特別支援教育体制を充実させること	・2項目ともに「成果が出ているもの」となっている。これは日頃より定期的にサポート会議を開き、個別に支援が必要な児童への対応を計画的に行っていくとともに、普通学級における支援が必要な児童に対しても、きめ細かな対応を行っている実践の反映と考えられる。
10		2	特別支援教育が充実するよう、関係諸機関との連携を深めること	
11	基礎・基本の確実な定着	1	ねらいを明確にするとともに、児童生徒が主体的に学習に取り組むよう、問題解決的な学習を計画的に取り組入れること	・項目1については保護者は「成果が出ているもの」、教職員は「優先の高い課題」となっている。これは、教職員は日々の授業改善の中で児童の成長を認めつつも主体的な取組等、更にレベルアップを望んでいる。児童は進んで授業に取り組めており、実現回答率も91.9%と高く、保護者もそれを認めているということであろう。項目2は、保護者は「優先の高い課題」、教職員は「成果が出ているもの」と評価が大きく分かれている。教職員は毎日の学習の様子やテストの結果等から、学習したことの理解が着実に定着してきていると考えている。しかし、保護者は子供への期待度も高く、現状には納得していないという反映と考えられる。項目3については保護者で唯一の「ニーズ度」該当になっている。教職員は普段、考えさせる場面や知識・技能の定着場面等、意識的に授業を行っていたり、校内研修では言語活動をテーマに日常実践や研究授業をこなしたりしているが、まだ不十分ということであろう。一方、保護者にとっては、我が子に対する期待の高さや学習参観等での発言の様子から厳しい評価になっているものと思われる。児童では92.4%が「授業がよく分かる」と答えているが、表現力については79.1%と若干下がっている。 ・項目4については、保護者が「優先度の低い課題」、教職員が「成果がでているもの」と評価が分かれている。これは学校では様々な機会を通して読書指導を行っているが、家庭ではそれがあまりなされていない様子が感じられる。 ・項目5については、保護者、教職員ともに「優先の高い課題」となっていて、家庭の協力が必要な課題でもあり、家庭と学校が情報を密にして取り組まなければならないであろう。
12		2	基礎的・基本的な知識・技能を習得する学習とそれらを活用する学習とをバランスよく行うこと	
13		3	各教科等の特性に応じた言語活動を工夫し、言語活動が充実するよう指導すること	
14		4	学校での朝読書や家庭での読書など、児童生徒が読書活動に取り組むこと	
15		5	家庭学習の習慣化など、学習習慣が身に付くように指導すること	
16	豊かな人間性の育成	1	全体計画や年間指導計画等に基づき、道徳教育や人権教育を計画的に推進すること	・保護者は全3項目が、教職員は項目2が「成果がでているもの」となっていて、児童の実現度も高い。これは教職員が子どもたちの人間関係について常に気を配り指導に努めていることが、児童や保護者にも理解されていることがうかがえるが、これれからもきめ細やかな配慮の継続が必要であると思われる。項目1は教職員は「優先度の低い課題」となっているが、心の教育を充実させていくということからも、教職員全体の共通理解のもとに、積極的に推進していく必要がある。項目3は、教職員は「優先の高い課題」であり、各教科の中の体験活動を見直し、実態に合わせながら効果的に取り入れられていく必要がある。
17		2	教師と児童生徒、児童生徒相互の豊かな人間関係づくりに取り組むこと	
18		3	児童生徒の発達段階や興味・関心に応じた豊かな心を育む体験活動を推進すること	
19	健康保持・体力の向上	1	児童生徒の体力が向上するよう、運動に取り組みやすい環境づくりや指導方法を工夫すること	・項目1については保護者は「十分取り組んでいるもの」、教職員は「成果が出ているもの」となっており、児童の実現度も高く、日頃より基礎体力の向上を図っていることが保護者に理解されているものと思われる。 ・項目2については、保護者は「成果が出ているもの」、教職員は「優先の高い課題」と評価が分かれている。教職員は、クラス全体の生活習慣の向上を期待するあまり評価が厳しくなっているものと思われる。 ・項目3については、保護者は「十分取り組んでいるもの」、教職員は「成果が出ているもの」となっており、評価は高い。項目4については保護者は「優先の高い課題」、教職員は「十分取り組んでいるもの」となっている。これは教職員は給食指導等を通してながら、食に関する指導を十分に行っていることの反映であると思われるが、保護者は児童の日常の食生活の様子から様々な思いや願い・不安等があり、その大切さに高い関心を持っていることがうかがえる。
20		2	家庭と連携しながら児童生徒に基本的な生活習慣が身に付くように指導すること	
21		3	健康診断結果に基づく疾病の早期治療の啓発や疾病予防に関する指導を行うこと	
22		4	望ましい食習慣の形成を目指し、食に関する指導を系統的に行うこと	
23	現代の教育ニーズに応じた多様な教育の推進	1	省エネ活動やリサイクル活動など、環境教育を推進すること	・項目1については保護者が「十分取り組んでいるもの」としている。PTAと児童で連携して取り組んでいるベルマーク・ペットボトルキャップ・古紙などの回収が、環境教育の一環として認知されつつあると思われる。他の項目はすべて「優先度の低い課題」とされた。キャリア教育は、小学校の段階における必要性和位置づけが明確になりつつあり、研修等を通してながら、認知され浸透していくものと思われる。外国語活動については、ここ数年、校内研修で実践を深めてきたが、教職員、保護者ともに、重要度という点で低くとらえがちである。ICT支援講師など、積極的に活用はしているが、ニーズ度方式の特徴から、他の観点から比較すると相対的に優先度が低くなってしまいう傾向が見られる。
24		2	望ましい職業観・勤労観や自分の生き方について考えさせるなど、キャリア教育を推進すること	
25		3	自国や他国の文化への関心やコミュニケーションの力を段階的に高めるよう、外国語活動を系統的に行うこと	
26		4	ICT機器を活用した授業実践や情報モラルを計画的に指導すること	
27	学校評議員制度の活用	1	学校評議員会を充実させ、評議員の意見を学校経営や学校改善に生かすこと	・教職員では「十分取り組んでいるもの」となっており、今後は更に評価の結果や改善点について、教職員全体の共通理解を図っていく必要がある。
28	地域の人材や学校支援センター等の活用	1	地域人材を有効に活用するために、学校支援センター機能を充実させること	・教職員では「優先度の低い課題」となっている。「読み聞かせ」や「寺子屋事業」、「昔の遊び」等で地域ボランティアの活動が定着してきているが、人材バンク等それらを総括的にコーディネートできる組織の整備が望まれる。
29	地域の文化や自然を生かした教育活動の推進	1	地域の文化や自然などの教育的価値を見出し、教育活動に生かすこと	・教職員では「優先度の低い課題」となっている。今までも取り組んではいるが、地域素材の教材化や地域素材の開発など、地域の文化や自然を生かして、学習の中に積極的に取り入れることが求められる。
30	教育活動の積極的な公開	1	日々の教育活動を理解してもらえよう、学校の様子を保護者や地域に積極的に伝えること	・保護者は「十分取り組んでいる」、教職員は「成果が出ているもの」となっている。教職員は開かれた学校を目指し、学校だより、学年学級だより、Webサイト等、様々な機会を通して学校の様子を公開している成果と考えられる。

## 課題となった項目に対する今後の取り組みと改善策

分析結果	連番	グループ	項目	設問	取 り 組 み ・ 改 善 策
教職員で「優先度の高い課題」となったもの	8	安全管理・指導の徹底	2	施設・通学路の安全点検や校区のパトロールなど、安全管理の徹底に取り組むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎内の安全点検を定期的実施し、事故の未然防止の徹底を図ります。</li> <li>・PTAによるパトロール・日常の通学路の点検・地域や保護者との情報の共有化など、学校・家庭・地域が三位一体となって事故の防止に努めます。</li> </ul>
保護者で「優先度の高い課題」となったもの	12	基礎・基本の確実な定着	2	基礎的・基本的な知識・技能を習得する学習とそれらを活用する学習とをバランスよく行うこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ステップアップティーチャーや学習支援講師と担任で、少人数制学習指導やTTによる学習指導をより効果的になるよう工夫し、きめ細かな学習指導に努めます。</li> <li>・朝学習や帰りの会の時間などを使い、ドリル学習を工夫し、学習内容の定着化を図ります。</li> <li>・体験的活動を取り入れることによって、学習への興味関心を高めたり、学んだことの活用の仕方について学べるようにします。</li> </ul>
保護者、教職員ともに「優先度の高い課題」、「ニーズ度」該当となったもの	13	基礎・基本の確実な定着	3	各教科等の特性に応じた言語活動を工夫し、言語活動が充実するよう指導すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修の中で各教科における言語活動のあり方について、二学期も研究と実践を進めていきます。</li> <li>・各教科における言語活動のあり方について研究と実践を進め、授業の中で話し合い活動や一人一人が発言する機会を多く設定し、言語活動の充実を図ります。</li> <li>・話し合いや発表の仕方の決まりを発達段階に応じて設定するなど言語活動を整え、学習で活用し表現力の向上を図ります。</li> </ul>
保護者、教職員ともに「優先度の高い課題」となったもの	15	基礎・基本の確実な定着	5	家庭学習の習慣化など、学習習慣が身に付くように指導すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との連絡を密にし、家庭学習のあり方や取り組み方について、「家庭学習の手引」などを基に共通理解を図ります。</li> <li>・発達段階に応じて「学習カード」や「デーリーライフ」を活用し、保護者、担任が家庭学習の様子を確認したり励ましたり</li> </ul>
教職員で「優先度の高い課題」となったもの	20	健康保持・体力の向上	2	家庭と連携しながら児童生徒に基本的な生活習慣が身に付くように指導すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との連絡を密にし、早寝早起き、朝食の習慣の定着化に向けて共通理解を図ります。</li> <li>・学校だよりやほけんだよりを通して学校での取り組みを保護者に広く伝え、家庭との連携を深めます。</li> </ul>
保護者で「優先度の高い課題」となったもの	22	健康保持・体力の向上	4	望ましい食習慣の形成を目指し、食に関する指導を系統的に行うこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食等の時間を利用しながら、望ましい食習慣のあり方や食の大切さに触れていくとともに、保護者との連絡を密にし、より良い食習慣の定着化に向けて共通理解を図ります。</li> <li>・学校だよりや保健だよりなどを通して、学校での取り組みを保護者に広く伝え、家庭との連携を深めます。</li> </ul>
「優先度の低い課題」の中で保護者、教職員のどちらも該当したもの	24	現代の教育ニーズに応じた多様な教育の推進	2	望ましい職業観・勤労観や自分の生き方について考えさせるなど、キャリア教育を推進すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校におけるキャリア教育のあり方について研修の場を設定する。</li> <li>・キャリア教育について校務分掌の中に位置づける。</li> </ul>
	25	現代の教育ニーズに応じた多様な教育の推進	3	自国や他国の文化への関心やコミュニケーションの力を段階的に高めるよう、外国語活動を系統的に行うこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他国の文化への関心を高めたり外国語のコミュニケーション能力を向上させたりするために、ALTと連携しながら、外国語活動の時間の充実を図ります。</li> </ul>
	26	現代の教育ニーズに応じた多様な教育の推進	4	ICT機器を活用した授業実践や情報モラルを計画的に指導すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT支援講師やPCサポート員の効果的な活用を図り、発達段階に応じた情報リテラシーや情報モラルを身につけられるようにします。</li> </ul>
「優先度の低い課題」の中で教職員のみ設問	2	学校経営の充実にに向けた学校評価の活用	2	特色ある学校づくりが充実するよう、学校独自の評価項目を設定して、評価結果を学校経営に生かすこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の重点項目は基本質問項目に網羅されていることや学校評価の分析・結果について、職員会議や研修の場で説明し、職員間の共通理解を図ります。</li> </ul>
	3	教職員の資質・能力の向上	1	実践的な授業力や経営力を高めるために市や県主催の研修会に参加すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外研修についての報告会を校内研修の中で設けることにより、研修の成果を職員間で共有化します。</li> </ul>
	28	地域の人材や学校支援センター等の活用	1	地域人材を有効に活用するために、学校支援センター機能を充実させること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読み聞かせ」や「寺子屋事業」、「昔の遊び」等で地域ボランティアの活動が定着してきており、更に地域の人材バンク等を有効に活用していくために、それらを総括的にコーディネートできる組織の整備が望まれる。</li> </ul>
	29	地域の文化や自然を生かした教育活動の推進	1	地域の文化や自然などの教育的価値を見出し、教育活動に生かすこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域にある教材の開発や掘り起しなどを行い、年間指導計画の中に位置づけて実践するなど、有効的な活用を図ります。</li> </ul>